

ロジスティクス環境会議
第4回企画運営委員会

2004年8月24日(火)17:00~19:00
(社)日本ロジスティクスシステム協会 会議室

次 第

1. 開 会

2. 経過報告

1) 各委員会の活動状況について

- ・環境パフォーマンス評価手法検討委員会
- ・源流管理による環境改善委員会
- ・省資源ロジスティクス推進委員会
- ・リバースロジスティクス調査委員会
- ・共通基盤整備委員会

3. 議 事

1) 広報・普及専門委員会の活動について

- ・ニュース・ジャーナルについて
- ・シンポジウムについて
- ・オブザーバー会議について
- ・パブリックコメントへの対応について

2) その他

4. 閉 会

【配布資料】

- 資料1 : 各委員会の活動状況
- 資料2 : ニュース、ジャーナルの基本的な枠組み
- 資料3 : シンポジウムの企画案
- 資料4 : オブザーバー会議
- 資料5 : パブリックコメントへの対応
- 参考資料1 - 1 : ニュース 第1号案
- 参考資料1 - 2 : ジャーナル発行計画案
- 参考資料1 - 3 : ジャーナル 第1号目次原案
- 参考資料2 : パブリックコメント
- 参考資料3 : 第2回広報・普及専門委員会 議事録

以 上

環境会議の目的、目標と各委員会の活動状況について

1. 環境会議の方針

- 1) 目的：循環型社会を実現するロジスティクスの構築 ～個人が変わる、企業が変わる、物流が変わる～
 2) 目標：行政・自治体・大学等の研究機関・関連団体との連携を図りながら、環境と調和したロジスティクス方針・活動を通じて、循環型社会を実現するロジスティクスの構築に取り組む企業を増やす。

2. 各委員会の活動方針と成果

	活動方針	2004年度活動内容	活動状況
1) 環境パフォーマンス評価手法検討委員会	1)ロジスティクス活動の環境負荷を定量的に把握、評価し、環境負荷を低減するため、荷主企業と物流企業等が相互に連携し、標準的な環境パフォーマンスを整備する。 2) 標準的な環境パフォーマンスを広く公開し、関係者に提案する。	<u>アウトプット：データ収集方法ガイド(10月)</u> これから算定したいと考えている企業に対して、算定のために必要なデータおよびその収集方法について、既に算定している企業から抽出、整理し、データ収集方法ガイド(事例集含)としてまとめる。	・委員会メンバーの算定状況、算定式とデータ項目を確認。輸送については標準的算定式の方向性を確認。 ・現在、環境パフォーマンス算定の範囲、また算定のために必要なデータの入手方法等を調査中。 計算式の標準モデルは LEMS で作成したが、計算式に当てはめるデータの取り方が問題。 <small>標準式：二酸化炭素排出量(kg) = 燃料使用量(l) × 二酸化炭素排出係数(kg/l) 代替式：二酸化炭素排出量(kg) = 輸送量(t・km) × 二酸化炭素排出原単位(kg/t・km)</small>
2) 源流管理による環境改善委員会	1) 循環型社会に対応する企業の社会的責任として、企業間に渡るロジスティクスの視点から荷主企業の物流・ロジスティクス部門、物流企業として実施すべき事項を検討し、合意形成を図る。 2) 合意された内容はマニュアル形式にまとめ、広く公開し、関係者の環境活動を支援する。	<u>アウトプット：源流管理マニュアル(9月)</u> 荷主企業の物流部門並びに物流企業としてやるべきこと及び対策についてまとめる。 荷主企業の物流部門から他部門に関すること等は次のステップでまとめる。	・物流機能毎に管理すべき項目、施策をまとめるため、以下の分科会を構成。 【分科会：1.包装分科会 2.輸送分科会 3.保管・荷役・流通加工分科会】 ・管理項目の洗い出し、整理を行った後、業務プロセス、施策、課題等を洗い出した。 現在、施策、課題を中心に作成中。 定量化指標については、パフォーマンス委員会との連携を図り、今後項目として記載したい。
3) 省資源ロジスティクス推進委員会	1) 省資源・省エネルギーの視点から、サプライチェーンを構成する製造業・流通業・物流業等が一体となって物流の環境負荷を低減するため、物流諸活動の事例収集を行い、その結課を関係者に公開する。 2) 課題解決のための方向性をまとめ、関係者に提案する。	<u>アウトプット：企業(間)の各種物流施策の事例集(10月)</u> 荷主企業、物流企業の夫々の立場から共同化、モーダルシフト等の事例集の材料を収集し、整理する。 課題等も併せて収集し、次のアウトプットであるガイドラインの頭だしも行う。	・各社から共同化、モーダルシフト等の事例収集の後、業種毎に以下の分科会を構成し、分科会毎に事例の発表を行い、情報を共有した。 【分科会：1.食品・流通分科会 2.機械器具・精密機器分科会 3.素材分科会】 ・当委員会の事例集としては、特に、各企業で検討はされたが実施に至らなかった事例等、今後更に共同化、モーダルシフトを推進する際にポイントになる部分も整理していく。
4) リバースロジスティクス調査委員会	1)ロジスティクスの視点から、今後本格的に必要とされるリユース、リサイクルに関わる物流のあるべき姿を描くために調査活動を行い、その結果を公開する。 2)消費者における還流管理の促進を含め、リバースロジスティクスの構築が可能となる環境整備を促進するため、関係者に対して提案を行う。	<u>アウトプット：調査報告書(2005年3月)</u> 複数の製品を選定した後、以下のフローで調査し、まとめる。 1.現状 2.あるべき姿 3.改善策 4.提言	・アンケート調査にて調査対象製品を選定し、以下の分科会で具体的な調査テーマを検討中。 【分科会：1.家電・OA 機器分科会 2.自動車分科会 3.食品分科会 4.物流分科会】 ・全体会(隔月ペース)を開催する際は、勉強会(メンバーの事例発表が中心)を開催。 ・年2回程度見学会を開催。 7月にリサイクル施設の見学を実施。11月北九州エコタウンを見学予定。
5) 共通基盤整備委員会	環境会議及び各委員会の円滑かつ効果的な活動を支える共通の「情報資源」を整備し、アウトプットは原則全て公開する。	アウトプット： 1) 環境に関する用語集(4月) 2) 行政、自治体、産業界、学界、団体等のリンク集(7月より)	・4月に予定されていた用語集の公開が遅れ、9月より公開(予定)。 ・ロジスティクスに関わる環境URLのリンク集を作成中。8月中旬に公開予定。 ・環境会議全メンバーを対象にしたイベントを行うため、中国の環境事情やCO2削減に向けての課題等を関係各省や業界団体から講演を聞くなど、当委員会メンバーから聞きたいテーマや内容について調査を行い、企画をまとめる

ニュースとジャーナルの基本的な枠組み（案）

	ニュース	ジャーナル
名 称	C G L N E W S	C G L J O U N A L
編集方針	実務担当者が把握しておくべき行政（団体）関係の動向の情報収集・発信	役員、部長クラスが将来ビジョン構築のための情報収集・発信 業際の視点でわかりやすく解説する
対 象	・各委員会の登録メンバー（実務担当者） ・137名	・登録メンバーの役員、部長クラス（代表登録者） ・125名（オブザーバー、特別メンバー含）
発行頻度	2ヶ月1回 情報提供すべき内容がある場合は都度発行	4ヶ月1回（3回/年）
容 量	A4版1枚程度	A4版4枚程度
媒 体	電子メール	冊子
作 成	事務局	事務局、編集アドバイザー：鈴木邦成氏(文化女子大学)、他
基本的な 枠組み	1.環境会議の活動状況 ホームページ情報の確認 2.行政（団体）機関の施策動向 ・経済産業省、国土交通省、環境省、農林水産省、 その他（関係団体含） パブリックコメントの情報発信含む 上記からテーマを2つ程度選択し、掲載する。 3.その他	1.関係機関（団体）、国際、技術開発等の動向 ・関係行政機関の施策動向 ・関係業界団体の動向 ・海外の関係機関等の国際動向 ・関連技術開発の動向 上記からテーマを2つ程度選択し、掲載する。 2.環境会議の活動状況 3.その他
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュース、ジャーナルは環境会議のメンバーを対象に情報発信を行う。 ・ニュース、ジャーナルの内容は原案（原稿）段階で広報・普及専門委員メンバーにメールにて確認いただく。 ・ジャーナルは発行後、PDFファイルにしたものをホームページに貼り付け、各委員会登録メンバーも参照できるようにする。 	

ロジスティクス環境会議
第1回シンポジウム プログラム(案)

1. 目的：シンポジウム等のイベントを通じて、ロジスティクス環境会議（以下、CGL）の活動成果等を広く情報発信し、循環型社会を実現するロジスティクスの構築に取組む企業を増やす。

2. 概要：

日 時：2004年12月17日（金）13：30～17：30

会 場：経団連ホール

参加料金：ロジスティクス環境会議（CGL）メンバー：2,000円、その他：5,000円

環境活動に取組む企業を増やすため、CGLメンバーから取引先、協会社等の方々へ積極的な参加動員のご協力をお願いいたします。

CGLメンバーからご紹介いただいた方は、メンバー料金にて対応させていただきます。

参加料金は税込みの金額です。

参加人数：400名（予定） 経団連ホール最大収容人数：470名

後 援：経済産業省、国土交通省、環境省、農林水産省（申請予定）

協 賛：日本経済新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、NHK（申請予定）

プログラム：

13:30～13:40	開 会 「主催者挨拶」 杉山 武彦 氏 ロジスティクス環境会議 企画運営委員会 委員長 一橋大学 副学長
13:40～14:30 (50分)	「環境対応と経営革新」 江村 祐輔 氏 キヤノン(株) 常務取締役 グローバル環境推進本部長
14:40～15:30 (50分)	「荷主企業と物流企業におけるCO ₂ 削減の評価と課題」 増井 忠幸 氏 ～環境パフォーマンスの視点から問題提起と提案～ ロジスティクス環境会議 環境パフォーマンス評価手法検討委員会 委員長 武蔵工業大学 環境情報学科 教授
15:45～17:15 (90分)	【パネルディスカッション】 「産業界と関係行政の連携によるCO ₂ 削減に向けて」 ・各企業と企業間にわたる課題（源流管理、共同物流、モーダルシフト、リバース等） ・環境活動の評価と課題 ・関係行政の施策と産業界からの要望 司会進行：増井 忠幸氏（武蔵工業大学） パネラー：荷主企業：三菱電機(株) 又は松下電器産業(株) 物流企業：リコーロジスティクス(株) 又は佐川急便(株) 関係行政：経済産業省、国土交通省
17:15～17:30 (15分)	「ロジスティクス環境会議の活動紹介」 小西 俊次 氏 ロジスティクス環境会議 広報・普及専門委員会 委員長 愛知陸運(株) 常務取締役
	閉 会

オブザーバー会議について

1. 目的

オブザーバーである各省庁との情報交換による連携推進および関係各省に対する提言活動を推進するため、オブザーバー会議を企画する。

2. 参加対象メンバー

(1) オブザーバーの関係各省

- ・ 経済産業省
- ・ 国土交通省
- ・ 環境省
- ・ 農林水産省

(2) 環境会議関係者

企画運営委員会の全委員

3. 開催の延期について

9月下旬とされているオブザーバー会議については、延期としたい。

各委員会の活動状況を見て、課題等を整理したうえで、オブザーバー会議の企画を再度検討することとし、それまでは、事務局を中心にオブザーバーの関係各省に足を運び、活動状況等を報告しながらコミュニケーションを図るようにする。

【広報・普及専門委員会における主な意見】

- ・ オブザーバー会議については、産業界として実現したいことを、関係各省と意見交換を重ね、産業界と行政が共に作り上げる場にしていけることが必要ではないか。
- ・ 産業界の意向を行政側に負担にならないような形で投げかけができるようにすることがポイントではないか。
- ・ 産業界、環境会議としての結論に至る前の段階でも、現時点で抱えている問題や課題を気軽に行政に伝えることができるような場にしていきたい。
- ・ 産業界と行政が垣根の無い環境を作るためにも、まずは事務局が定期的にオブザーバーの関係各省に足を運ぶことが必要ではないか。

以上

パブリックコメントに対する対応について

近年、行政が政策を打出す際に、産業界等の民意を踏まえて政策立案を行う形式が多くなってきている。実際には、関係各省のホームページに掲載が開始されてから締切り迄の期間は3週間から1ヶ月程度となっているケースが多い。

参考資料のようなテーマでパブリックコメントを産業界に求められた場合、環境会議として以下のように対応したい。

- 1) 原則として、パブリックコメントが出されたことは環境会議メンバーにCGLニュースで情報発信する。
- 2) 関係各省から出されたパブリックコメントは、先ず、広報・普及専門委員会のメンバーにて、その内容を確認し、重要度が高いものについては、企画運営委員会を緊急に開催し、対応を検討する。

【広報・普及専門委員会における主な意見】

- ・パブリックコメントについては、関係各省のホームページに掲載されてから締切り期日まで非常に時間が短いため、組織的な対応は難しいのではないかと。
- ・広報・普及専門委員会としては、パブリックコメントが出されたことをメンバーに情報発信するというスタンスで良いのではないかと。
- ・重要度が高いものについては、広報・普及専門委員会および企画運営委員会として検討する場を緊急に設け、対応すれば良いのではないかと。

以 上

ニュース（案）について

1. 名称 C G L NEWS
2. 編集方針 実務担当者が把握しておくべき行政（団体）関係の動向の情報収集・発信
3. 対象 各委員会の登録メンバー
実務担当者
4. 発行頻度 2ヶ月1回
5. 媒体 電子メール
6. 作成の流れ
 - 1) 原案作成 事務局
 - 2) 原案確認 広報・普及専門委員メンバー
 - 3) 確認方法 電子メール
内容等について各委員の方から意見、要望等をいただきたい。
7. 基本的な枠組み
 - 1) 行政（団体）機関の施策動向
・経済産業省、国土交通省、環境省、農林水産省、その他（関係団体含）
上記からテーマを2つ程度選択し、掲載する。
 - 2) 環境会議の活動状況 ホームページ情報の確認
 - 3) その他

CGL JOURNAL 発行計画(案)

発行号	テーマ1	テーマ2	用語解説	活動状況
第1号 2004年9月	行政動向 地球温暖化対策推進大綱	国際動向 中国の環境対策と物流	共通基盤整備委員会による検討	各委員会の状況 サマリー版
第2号 2005年1月	シンポジウム	業界団体動向 環境パフォーマンス算定方法の動向	共通基盤整備委員会による検討	各委員会の状況 サマリー版
第3号 2005年3月	第3回本会議	国際動向 CO ₂ 排出権取引をめぐる日米欧の動向	共通基盤整備委員会による検討	各委員会の状況 サマリー版
第4号 2005年7月	行政動向 地球温暖化対策推進大綱 見直し後のフォロー 又は、新物流施策大綱の見直し	業界団体動向 リサイクル法に対する企業の対応	共通基盤整備委員会による検討	各委員会の状況 サマリー版
第5号 2005年12月	シンポジウム	環境技術動向 物流に関わる環境技術の動向	共通基盤整備委員会による検討	各委員会の状況 サマリー版
第6号(最終) 2006年3月	第4回本会議	トップ対談 議長、副議長、行政		

ジャーナル(案)について

1. 名称 CGL JOURNAL
2. 編集方針 役員、部長クラスが将来ビジョン構築のための情報収集・発信
業際の視点でわかりやすく解説する
3. 対象 登録メンバーの役員、部長クラス 管理者、経営トップクラス
4. 発行頻度 4ヶ月1回(3回/年)
5. 媒体 冊子
6. 作成の流れ
 - 1) 原稿作成 事務局、編集アドバイザー：鈴木邦成氏(文化女子大学)、他
 - 2) 内容確認 広報・普及委員メンバー
 - 3) 確認方法 電子メール
内容等について各委員の方から意見、要望等をいただきたい。
7. ジャーナルの基本的な枠組み(原案)
 - 1) 関係機関(団体)、国際、技術開発等の動向
 - ・関係行政機関の施策動向
 - ・関係業界団体の動向
 - ・海外の関係機関等の国際動向
 - ・関連技術開発の動向上記からテーマを2つ程度選択し、掲載する
 - 2) 環境会議の活動状況
 - 3) その他

3. 第1号目次原案(9月下旬)

1) グリーンロジスティクスとは

- (1) 環境と物流
- (2) フォワードロジスティクスにおける環境武装
- (3) リバースロジスティクスにおける環境武装

2) リサイクル・リユース物流システムの動向

- (1) リサイクル法の整備状況
- (2) リサイクル・リユースに取り組む先進企業事例

その他候補

- ・ 物流グリーン化・国内外施策動向
 - * 国内外の法整備やそれに対する企業の対応などの解説
例えば、自動車リサイクル法の施行とそれに関連する企業の対応など
日野自動車はトラックリサイクル料金を発表
- ・ 環境関連法規の枠組と物流
 - * 自動車 NOX・PM 規制法開始後のトラック新規登録状況の変化など
あるいはリサイクル法に対応する企業の動静など、産業、業種別の動向など
- ・ CO2 排出権取引をめぐる日米欧の動き
 - * 2005 年に誕生する欧州統一排出権市場のゆくえ、米国市場のしくみなど
日本企業の対応も
- ・ 中国の環境対策と物流
 - * 中国の最新の環境対策とその変化について。さらに加えて物流との関係で中国はどのような工夫をしているか、また課題はなにかなど。

3) 委員会報告

各委員会、分科会の活動状況など

4) 用語解説

環境関連物流用語解説

情報量としては4ページ程度を予定

以上

「地球温暖化対策推進大綱の評価・見直しに向けた課題」に対するパブリックコメントの募集について

平成16年7月2日
産業技術環境局
環境政策課環境経済室

京都議定書における我が国の削減約束6%は、地球温暖化対策推進大綱(2002年3月決定)において、国内温室効果ガスの排出削減、吸収源対策、京都メカニズムの活用、により達成することとなっています。京都議定書の削減約束を達成するため、我が国は地球温暖化対策推進大綱に基づき、地球温暖化に対する諸対策・施策を講じてきており、本年(2004年)はその評価・見直しの年となっています。

それを踏まえ、産業構造審議会環境部会地球環境小委員会では、本年1月13日より、主に地球温暖化対策推進大綱の評価・見直しに関する課題についての審議を行ってきたところであります。とりわけ、国内温室効果ガスの排出削減、京都メカニズムの活用方針について審議を重ねてきました。

国内温室効果ガスの排出削減については、エネルギー起源CO₂については、総合資源エネルギー調査会需給部会、省エネルギー部会、代替フロン等3ガス対策については、産業構造審議会化学・バイオ部会、革新的技術開発については、産業構造審議会産業技術分科会における審議と連携しつつ、審議を行ってきました。上記各委員会における現行対策の評価及び追加対策の必要性、追加対策が必要な場合にはその内容を聴取し、本小委員会では地球温暖化対策推進大綱の評価・見直し全般について、審議を行ってきました。

今般、これまでの審議の集約を行い、本小委員会として、論点整理を行い、地球温暖化対策推進大綱の見直しに向けてパブリックコメントを募集することとします。

なお、本論点整理は、地球温暖化対策推進大綱の評価・見直しについての考え方を整理することが中心となっており、追加対策の具体的内容については、総合資源エネルギー調査会需給部会、省エネルギー部会等において詳細に審議・とりまとめがなされており、そちらを参考資料として添付致しますので、ご参照下さい。ただし、参考資料については、今回のパブリックコメントの対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承下さい。

【意見募集要項】

1．意見募集対象

『地球温暖化対策推進大綱の評価・見直しに向けた課題』（PDF形式：130KB）

<http://www.meti.go.jp/feedback/downloadfiles/i40702bj.pdf>

2．意見募集期間

平成16年7月22日（木） 17：00（必着）まで

3．意見提出方法

電子メールにて（ワードファイル使用）ご意見を下記アドレスまで、送付してください。意見提出について、ご不明の点等ございましたら、下記電話番号まで、お問い合わせ下さい。ただし、お電話にてのご意見は対応しかねますので、予めご了承ください。

電子メールアドレス： chikyuu-ondanka@meti.go.jp

経済産業省産業技術環境局環境経済室 地球環境小委員会事務局 あて

（意見提出に関するお問い合わせ先）

03 - 3501 - 1679（経済産業省 環境政策課 担当：前田）

4．意見記入要領

氏名、連絡先（住所、電話番号、お持ちであればFAX、電子メールアドレス）、職業（会社名、団体名、役職等）を明記してください。

様式は以下の【意見提出様式の例】を参考にして作成してください。

記入漏れや本要領に即して記述されていない場合には、ご意見を無効扱いとさせていただきます。

【意見提出様式の例】（ワードファイルでご提出下さい）

1．氏名

2．連絡先

- ・住所 〒
- ・電話番号
- ・FAX番号
- ・電子メールアドレス

3．職業（会社名、団体名、役職等）

4．意見

・該当箇所：『地球温暖化対策推進大綱の評価・見直しに向けた課題』のどの部分についてのご意見か、該当箇所が分かるように明記してください。

例）P. の（上から） 行目の“ ”について

< 1項目につき、意見と理由を併せて400字以内をめぐりご記入下さい >

- ・意見内容（箇条書きで簡潔に記して下さい。）
- ・理由（箇条書きで記したご意見の下に<理由>として簡潔に記して下さい。）

5．資料の入手方法

関係資料は以下で入手可能です。

(1) インターネットでの閲覧

経済産業省・地球環境対策ホームページ（随時更新）

（http://www.meti.go.jp/policy/global_environment/index.html）

(2) 事務局での配布

経済産業省産業技術環境局環境経済室において、関係資料を配付します。

6. 公開について

お寄せ頂いたご意見は、連絡先を除き、全て公開される可能性がありますので、予めご承知おきください。お寄せ頂いたご意見中に、個人に関する情報であって特定の個人が認識しうる記述がある場合及び法人等の財産権等を害するおそれがある場合には、公表の際に当該箇所を伏せていただきます。

【参考資料】

本地球環境小委員会における今までの検討過程の資料

「国内温室効果ガス削減対策の今後の論点」(PDF形式：140KB)(平成16年5月21日 産業構造審議会環境部会第20回地球環境小委員会配布資料)

「国内温室効果ガス削減対策の評価及び2010年における排出量見通し」(PDF形式：381KB)(平成16年5月21日 産業構造審議会環境部会第20回地球環境小委員会配布資料)

「今後の京都メカニズム活用方策の考え方」(PDF形式：360KB) (平成16年6月2日 産業構造審議会環境部会第21回地球環境小委員会配付資料)

総合資源エネルギー調査会における検討資料

「2030年のエネルギー需給展望」(PDF形式：1.08MB)(総合資源エネルギー調査会需給部会中間とりまとめ原案) (平成16年6月16日 総合資源エネルギー調査会第9回需給部会配付資料)

「今後の省エネルギー対策のあり方について(案)」(PDF形式：63KB)(総合資源エネルギー調査会省エネルギー部会中間とりまとめ案) (平成16年6月17日 総合資源エネルギー調査会第6回省エネルギー部会配布資料)

産業構造審議会化学・バイオ部会地球温暖化防止対策小委員会における検討資料

「第1ステップにおけるHFC等排出抑制対策の評価について」(PDF形式：147KB) (平成16年5月21日 産業構造審議会環境部会第20回地球環境小委員会配布資料)

産業構造審議会産業技術分科会研究開発小委員会革新的温暖化対策技術フォローアップWGにおける検討資料

「革新的温暖化対策技術フォローアップWG中間報告(案)」(PDF形式：133KB) (平成16年5月19日 産業構造審議会産業技術分科会第4回研究開発小委員会革新的温暖化対策技術フォローアップWG配布資料)

『地球温暖化対策推進大綱』(平成14年3月19日地球温暖化対策推進本部決定)については、下記よりご覧下さい。

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/ondanka/index.html>

ロジスティクス環境会議
第 2 回 広報・普及専門委員会 議事録

・ 日 時：2004年8月5日(木) 15:00～17:00

・ 場 所：東京・港区 (社)日本ロジスティクスシステム協会 会議室

・ 出席者：10名

・ 議 案：

- 1) ニュース、ジャーナルについて
- 2) シンポジウム等の開催について
- 3) 行政動向とその対応について
- 4) オブザーバー会議について

・ 開 会

定刻、小西委員長より、開会が宣された。

・ 報 告【資料1】

事務局より、資料1に基づき、各委員会の活動状況の報告が行われた。

・ 議事の経過

1. 議 事

小西委員長の司会進行のもと、以下のような議事が行われた。

1) ニュース、ジャーナルについて【資料2 - 1、2 - 2】

事務局より、資料に基づき、ニュース、ジャーナルの原案の説明が行われた後、以下のような意見交換がなされた。

【主な意見交換の内容】

【委 員】ニュースの発行頻度は2ヶ月に1回となっているが、それ以外には発信しないのか。

【事務局】2ヶ月に1回というのは、原則であり、発信すべき内容があるときには、臨時にその都度発信したい。

【委 員】ニュース、ジャーナル共に、目的や対象等を明確にした方が良い。

【委 員】第1号の原案の内容については、簡略的になり過ぎているため、概要をもう少し詳しく書いた方が良いのではないかと。

【委 員】ジャーナルの作成者が一人になっているが、作成者の考え方に偏りができるのではないかと。

【事務局】広報・普及専門委員会の委員の方々にも執筆をお願いしたいところであるが、執筆者の負担が重くなると考えている。鈴木先生以外にも適当な方がいらっしゃれば、事務局に紹介いただきたい。また、内容に偏りが出ないようにするためにも、原稿の確認を広報・普及専門委員会メンバーをお願いしたいと考えている。

【委員】ニュースの原案、ジャーナルの原稿等の確認で委員にメールを流す場合は、他委員のコメントも把握できた方がいいため、配信方法はＢＣＣではなく、配信先が配信者にわかるようにしてほしい。

以上のような意見交換を踏まえ、目的、編集方針等を事務局にて整理したうえで、ニュース、ジャーナルの原案（原稿）を作成し、広報・普及専門委員メンバーにメールにて確認し、作業を進めることが確認された。

ニュース、ジャーナル共に作成の流れについては、資料のとおり行うこととし、ニュース原案、ジャーナル原稿をメールにて委員送信する際は、配信先が配信者にわかるようにする。

2) シンポジウム等の企画について【資料3】

事務局より、資料に基づき、シンポジウムの企画案について説明が行われた後、以下のような意見交換がなされた。

【主な意見交換の内容】

【委員】環境会議のメンバー以外にも、広く情報発信することが当委員会の大きなミッションであるとい認識している。シンポジウムの規模は500名程度を考え、参加料も高額にならないようにするべきではないか。

【委員】B案をベースに企画を再度検討してほしい。現状では、海外の動向よりも、国内企業の事例を増やしてほしい。また、B案に関係各省と環境会議の内容紹介を加えても良いのではないか。

【委員】プログラムとしては、午後半日くらいが良いのではないか。

以上のような意見交換を踏まえ、開催時期も含めて事務局にて企画を再検討し、広報・普及専門委員会のメンバーにメールにて確認いただき、意見等を整理したうえで、第3回企画運営委員会に諮ることが確認された。

3) 行政動向とその対応について【資料4】

事務局より、資料に基づき、パブリックコメントとグリーン物流パートナーシップ会議に関する説明が行われた後、以下のような意見交換がなされた。

(1) パブリックコメントに対する対応

【主な意見交換の内容】

【委員】パブリックコメントについては、関係各省のホームページに掲載されてから締切り期日まで非常に時間が短いため、組織的な対応は難しいのではないか。

【委員】広報・普及専門委員会としては、パブリックコメントが出されたことをメンバーに情報発信するというスタンスで良いのではないか。

【委員】重要度が高いものについては、広報・普及専門委員会および企画運営委員会として検討する場を緊急に設け、対応すれば良いのではないか。

以上のような意見交換を踏まえ、パブリックコメントについては、以下のような対応することが確認され、第3回企画運営委員会に諮ることが確認された。

原則として、パブリックコメントが出されたことは環境会議メンバーにCGLニュースで情報発信する。

関係各省から出されたパブリックコメントは、先ず、広報・普及専門委員会のメンバーにて、その内容を確認し、重要度が高いものについては、企画運営委員会を緊急に開催し、対応を検討する。

(2) グリーン物流パートナーシップ会議に対する対応

【主な意見交換の内容】

- 【委員】グリーン物流パートナーシップ会議（以下、パートナーシップ会議）の趣旨は理解できるが、環境会議と同じような会議体を他に設けるとするのは、参加する企業としては困る。
- 【委員】1,400万トンの削減目標が記載されているが、その数値目標が産業界に対して義務化されることは反対である。
- 【委員】万が一、数値目標が義務されるような場合は、数値目標を達成した企業に対して、表彰や減税等のメリットが享受できる仕組みを検討するべきではないか。
- 【委員】数値目標については、環境会議等で産業界として自主的に目標を定めるのであれば、尊重していきいたいと考えている。

以上のような意見交換を踏まえ、パートナーシップ会議については、広報・普及専門委員会で結論を出すテーマでないため、第3回企画運営委員会の場合にて、改めて検討を行うことが確認された。

4) オブザーバー会議の企画（案）について【資料5】

事務局より、資料に基づき、オブザーバー会議の企画（案）について説明が行われた後、以下のような意見交換がなされた。

【主な意見交換の内容】

- 【委員】オブザーバー会議については、産業界として実現したいことを、関係各省と意見交換を重ね、産業界と行政が共に作り上げる場にしていくことが必要ではないか。
- 【委員】産業界の意向を行政側に負担にならないような形で投げかけができるようにすることがポイントではないか。
- 【委員】産業界、環境会議としての結論に至る前の段階でも、現時点で抱えている問題や課題を気軽に行政に伝えることができるような場にしていきたい。
- 【委員】産業界と行政が垣根の無い環境を作るためにも、先ずは事務局が定期的にオブザーバーの関係各省に足を運ぶことが必要ではないか。

以上のような意見交換を踏まえ、9月下旬とされているオブザーバー会議については、延期とすることが確認された。各委員会の活動状況を見て、課題等を整理したうえで、オブザーバー会議の企画を再度検討することとし、それまでは、事務局を中心にオブザーバーの関係各省に足を運び、活動状況等を報告しながらコミュニケーションを図るようにすることが確認された。

5) その他

今後のスケジュールについて

次回委員会は、以下のとおり開始することが確認された。

第3回広報・普及専門委員会

日 時：8月31日(火) 10 - 12時

会 場：未定

2. 閉 会

以上をもって全ての議事を終了し、小西委員長は閉会を宣した。

以 上